

芎歸膠艾湯

渡邊賀子

原典

「金匱要略」婦人妊娠病

師曰。婦人有漏下者。有半產後。因續下血都不絶者。有妊娠下血者。

假令妊娠腹中痛。爲胞阻。膠艾湯主之。

不正赤血
流産後赤血
妊娠中の腹痛

妊娠中下血

●芎歸膠艾湯方。

芎藭。阿膠。甘草各二兩。艾葉。當歸各三兩。芍藥四兩。乾地黄。

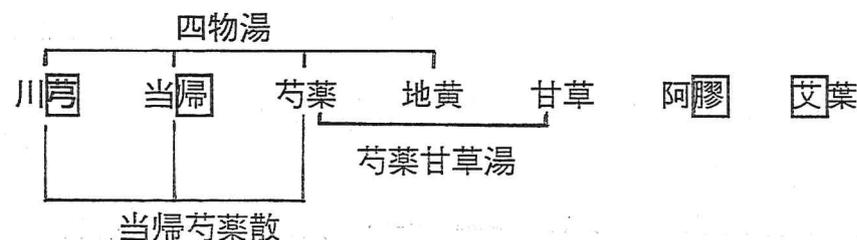
右七味。以水五升。清酒三升。合煮取三升。去滓。内膠令消盡。

温服一升。日三服。不差更作。

処方構成と薬能

- 当歸 体を温め、血を増し、血の鬱滞をさり、強壯・鎮痛・鎮静効果を持つ
- 川芎 体を温め、血を増し、頭痛・腹痛を治す
- 芍藥 筋肉の緊張をゆるめ、鎮痛・鎮静効果があり、血のめぐりをよくする
- 地黄 増血・止血・強壯・鎮痛・鎮静効果を持つ
- 甘草 解毒・強壯作用を持ち、急迫症状を治し、諸薬を調和する
- 艾葉 止血・強壯効果をもち、体を温める
- 阿膠 止血・強壯・鎮静効果をもつ

方意



(+茯苓・白朮・沢瀉)

使用目標

○漢方診療医典

本方は諸種の出血、特に下半身の出血を止める目的で用いる。うっ血の傾向があって、出血が長引き、貧血の傾向のあるものを目標とする。

子宮出血、痔出血、腎膀胱出血、腸出血などに用いられ、流産の傾向のあるものに用いてこれを予防する効がある。

○症候による漢方治療の実際（出血）

子宮出血、流産後出血の止まないもの、妊娠中の出血などに用いることになっているが、痔出血や腎臓からの出血にも用いる。三黄瀉心湯や黄連解毒湯には、消炎・鎮痛・止血の効果があるので、充血・のぼせ・興奮などを目標として、上半身の出血に用いることが多く、芍婦膠艾湯は鬱血を散じ、強壯・増血の効があるので、血色が悪く、冷え症のあるものを目標とする。

○漢方処方解説

諸出血が続いて、貧血の状を呈する者に用いる。熱性症状のないものである。

虚寒症の出血、もしくは貧血があってさらに瘀血の証があり、左腹直筋の攣急、腹部は一般に軟弱無力で、下腹部に知覚鈍麻、四肢煩熱、下腹の疼痛などを目標とする。

⇒性器出血・痔出血・腎ならびに尿路出血・下血

古 典

勿誤藥室方函口訣

「この方は止血の主薬とす。故に漏下胞阻に用ゆるのみならず、千金・外台には妊娠失^風傷産および打撲傷損、諸失血に用ゆ。千金の芍婦湯、局方の四物湯は皆この方を祖とすれども、阿膠の滋血、艾葉の調経に加えるに甘草の和中を以てしてその効妙とす。」

類聚方広義

「血痢止まずして腹満、熱実症なく、ただ腹中攣痛、唇舌乾燥する者にはこの方間々効あり。婦人、妊娠毎に墮胎する者あり、産する毎に育たざる者あり。この症の人は始終この方を服し、五月以降は巖に枕席を慎み、以て不育の患を免るべし、もし浮腫小便不利する者は当帰芍薬散に宣し。」 男も婦人同様にす

校正方輿説

「芎帰膠艾湯は妊娠中に下血して腹中痛む者に用いる方なり。また、下血せずしてただ腹痛するばかりにも用いることあり。また妊娠中に怪我をして胎動することあり。ここへ最も効ある薬なり。怪我をして腰や腹痛みだして甚だしきは下りものなどありて墮胎せんとするに用いてよくとりとめるもの也。また一治験あり。毎産5・6月に墮胎するものに之を好くすれば墮胎を免れるなり。胎動に当帰芍薬散や当帰散などを用いるは軽き場也。軽きうちは右の2方などにてよし。これにても、いえざるときは芎帰膠艾湯を用いてよし。当帰芍薬散の痛みは劇しくとも、腹のみありて腰にかからぬなり。膠艾湯の痛みは小腹にありて腰にかかるなり。故に膠艾湯には腰腹痛とあるなり。当帰芍薬散の場にてても、腰にかかるものは早く膠艾湯を用ゆべし。腰痛は墮胎せんとするのきざしなり。早く救うべし。胎動して腰にかかるに至るものは必ず血を見る者なり、軽き者はその時血の下るを知らずしている者なり。よくよく意をそそいで審にすべし。」

百灰一貫

「妊娠中、漏下には膠艾よし。腹中の痛みと痛まざるとによらざるなり。又、任中不拘の方は金匱より千金の膠艾よし。芎帰膠艾の四味なり、地黄、芍薬なし。」

芎帰膠艾+甘草

腹証奇覽

図のごとく小腹に物があり、これを按ずるといたむものは芎帰膠艾湯の証である
ただし、痛むとはいっても急結ではないので堅く応ずるものではなく、ただ少し拘攣がある程度のものである。

およそ芎歸膠艾湯の証は、時々腹が痛むというものであり、あるいは大いに下血、漏下などすることもある。

猪苓湯の腹証も同図のごとく小腹に物があって、これを按ずると痛み、大いに芎歸膠艾湯の証ににている。外証によってこれを分別することである。

猪苓湯は血証があり、冒悸して渴し、小便不利、腹中滿、これを按ずると軟で芎歸膠艾湯の証ににている。要するに芎歸膠艾湯の腹証に似て腹部軟滿、口渴、小便不利、ときどき膿血を便するのが猪苓湯の証である。

腹証奇覽翼

血証の候がある点では、猪苓湯と芎歸膠艾湯の腹証はよく似ている。しかし、芎歸膠艾湯には腹微滿、小便不利、渴の証はなく、猪苓湯は渴して水を飲まんと欲し、小便不利の候があるのが鑑別点である。

芎歸膠艾湯及猪苓湯之證



桂枝茯苓丸 せきを除く
膠艾湯 川の流水を止める

出血について

出血・止血についての考え方

温清飲

黄連・黄芩 → 炎症・充血傾向で、上半身の出血（喀血、吐血、鼻出血）に頻用
 導心湯
 顔色よく紅潮し、興奮気味のもの

地黄・芍薬 → うっ血気味で、下半身の出血（性器出血、痔出血、下血）に頻用
 顔色は土色か浅黒い

人参・茯苓 → 貧血が強いもの

人參湯 四君子湯 帰脾湯

桃仁 → 瘀血を呈するもの

関連処方

- 芎帰湯 川芎、当帰 (仏手散；分婉を早める)
- 膠艾湯 (景岳全書) 阿膠、艾葉
- 芎帰膠艾湯、膠艾湯 (千金方) = 川芎、当帰、阿膠、艾葉、甘草
- 陳氏六物湯 (婦人良方) = 川芎、当帰、地黄、芍薬、阿膠、艾葉

芎帰膠艾湯と四物湯

四物湯は、和剤局方が出典の後世方である。後世方は古方より処方構成が複雑で、薬味の数が多いのが一般的である。しかし、四物湯はその原方とされる芎帰膠艾湯より甘草、阿膠、艾葉の三味が少ない。

論 説

日本漢方医学雑誌
第14巻第2号p10-14
1963

芎帰膠艾湯の処方内容について

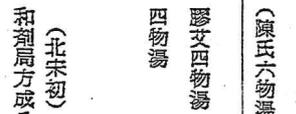
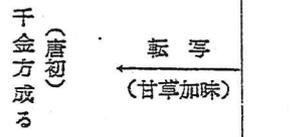
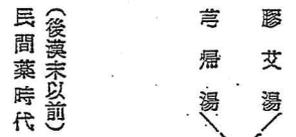
(第1図)

大 阪 西 岡 一 夫

(第3図)

(芎帰膠艾湯の変遷)

仲景以前よりあったと思はれる処方	㊶	薬能、四神などを方名としたり、亦主薬一味を方名としたりする処方	瀉心湯、承気湯、白虎湯、真武湯、桂枝湯、猪苓湯、小柴胡湯、瓜蒂散など
仲景の創方	㊷	以前よりあった処方を加去した処方	桂枝加芍薬湯、桂枝去芍薬湯、茯苓四逆湯など
	㊸	以前よりあった処方を合方して作った処方	柴胡桂枝湯、桂麻各半湯など
	㊹	主薬の二味又は三味が代表した処方	茯苓沢瀉湯、当帰芍薬散、柴胡桂枝乾姜湯など
	㊺	主薬不明で内容の全薬味を併列した処方	芍薬甘草湯、麻黄附子細辛湯、厚朴生姜半夏甘草人参湯など
後人の添加した処方	㊻	仲景方とするには不合理な点のある処方	炙甘草湯、紅藍花酒、崔氏八味丸、續命湯



(第2図)

処方名	地黄の有無	酒の有無	古方として疑義のある理由
防己地黄湯	生汁	有	明かに後入方
百合地黄湯	生汁	無	〃
薯蕷丸	乾	有	〃
大黃葶虫丸	乾	有	〃
炙甘草湯	生	有	千金翼, 外台より転入
三物黄芩湯	乾	無	千金方より転入
崔氏八味丸	乾	有	崔知悌(唐)の創方
黄土湯	乾	無	〔処方自体は古方なるも、当初より地黄を有していたか、どうか不明。(千金の処方地黄なし)〕
芎帰膠艾湯	乾	有	〃

地黄はない

湯出目には22

臨川

一週のようになり、また日によっては桃色になることもあるという。その他には別に何の症状もない。しかしこの血尿はいつまでも治らないので、某大学院に入院した。そこではいろいろと詳しく検査したのち腎臓からの出血であることをつきとめた。しかし原因がわからず、特発性腎出血ということになった。ところがこの血尿はいつまでもとまらないので、退院して私に治療を乞うた。腹診上は特にとりたてていいうほどのものはなく、ただ僅に臍部で動悸がやや亢進しているだけである。顔色は黒い方で、やや貧血の傾向がある。脈はやや沈んで小である。食欲は普通で、大便も1日1行あり、排便時にも苦痛はない。

以上の所見から芍薬膠艾湯を与えたとところ、4、5日後には肉眼では血尿らしいところがなく、その後、時々、疲れたときなどに血尿を出すことがあったが、だんだんそれも遠のき2ヵ月後には、体重が3kgほど増しまつた。健康体になつてしまつた。

(その後十四才と十五才の初月経過多症に、本方の適應症と思つて与えたが意外にも奏効しなかつた。この例は大君子湯に転方して好転した)

にも、四味膠艾湯ならば安心して使用しようといわれている。しかし第一例のように貧血がひどく、脾胃の虚弱なものか、食欲を害したり、下痢を起したり、かえつて出血の増すことなどがあつた。貧血があまりにひどいときは地黄いまで七味の芍薬膠艾湯を用いて、もちろん数多くの治療をえたが、ときに地黄のためか、酒煎を省略したため

痔出血に四味膠艾湯

147

鶴○お子という五十六歳の婦人。主訴は痔の出血である。嘔吐により桂枝茯苓丸料と七味膠艾湯を合方して与えたが、排便と同じように、肛門より血が奔流するほどであるという。そこで四味膠艾湯にしたところ、翌日一回は出血をみたが、二日から三日まで止まり、その後ほとんど痔の出血はなくなつた。この方十日分以後三ヵ月間出血なく済んでいる。

鶴○お子という五十六歳の婦人。主訴は痔の出血である。嘔吐により桂枝茯苓丸料と七味膠艾湯を合方して与えたが、排便と同じように、肛門より血が奔流するほどであるという。そこで四味膠艾湯にしたところ、翌日一回は出血をみたが、二日から三日まで止まり、その後ほとんど痔の出血はなくなつた。この方十日分以後三ヵ月間出血なく済んでいる。

鶴○お子という五十六歳の婦人。主訴は痔の出血である。嘔吐により桂枝茯苓丸料と七味膠艾湯を合方して与えたが、排便と同じように、肛門より血が奔流するほどであるという。そこで四味膠艾湯にしたところ、翌日一回は出血をみたが、二日から三日まで止まり、その後ほとんど痔の出血はなくなつた。この方十日分以後三ヵ月間出血なく済んでいる。

鶴○お子という五十六歳の婦人。主訴は痔の出血である。嘔吐により桂枝茯苓丸料と七味膠艾湯を合方して与えたが、排便と同じように、肛門より血が奔流するほどであるという。そこで四味膠艾湯にしたところ、翌日一回は出血をみたが、二日から三日まで止まり、その後ほとんど痔の出血はなくなつた。この方十日分以後三ヵ月間出血なく済んでいる。

鶴○お子という五十六歳の婦人。主訴は痔の出血である。嘔吐により桂枝茯苓丸料と七味膠艾湯を合方して与えたが、排便と同じように、肛門より血が奔流するほどであるという。そこで四味膠艾湯にしたところ、翌日一回は出血をみたが、二日から三日まで止まり、その後ほとんど痔の出血はなくなつた。この方十日分以後三ヵ月間出血なく済んでいる。

四味膠艾湯による月経過多症

143

高麗の子宮出血に対する治験例(漢方婦科上巻)

高麗膠艾湯の処方内容について、西岡一夫氏は、日東洋医学誌一四巻二号にその独自の見解を發表された。西岡氏は芍薬膠艾湯という方名を分析考証し、その原方は方名の如く四味であつたはずで、他の薬味は後人の添加したものであらうという。そしてそのことについては和田東郭がすでに言及して、臨床的効果も四味による芍薬膠艾湯の方が優つてゐるといつて、私はこの説に興味を覚え、最近これに四味膠艾湯と名づけて数例の治療を得た。

高麗の子宮出血に対する治験例(漢方婦科上巻)

高麗膠艾湯の処方内容について、西岡一夫氏は、日東洋医学誌一四巻二号にその独自の見解を發表された。西岡氏は芍薬膠艾湯という方名を分析考証し、その原方は方名の如く四味であつたはずで、他の薬味は後人の添加したものであらうという。そしてそのことについては和田東郭がすでに言及して、臨床的効果も四味による芍薬膠艾湯の方が優つてゐるといつて、私はこの説に興味を覚え、最近これに四味膠艾湯と名づけて数例の治療を得た。

高麗の子宮出血に対する治験例(漢方婦科上巻)

高麗膠艾湯の処方内容について、西岡一夫氏は、日東洋医学誌一四巻二号にその独自の見解を發表された。西岡氏は芍薬膠艾湯という方名を分析考証し、その原方は方名の如く四味であつたはずで、他の薬味は後人の添加したものであらうという。そしてそのことについては和田東郭がすでに言及して、臨床的効果も四味による芍薬膠艾湯の方が優つてゐるといつて、私はこの説に興味を覚え、最近これに四味膠艾湯と名づけて数例の治療を得た。

28歳の婦人、蒼白の顔をしている。一見してかなり貧血している。痔から永く出血しているが、手術がおそろしいので、医者にみせたことはないという。動くと、疲れやすく、それに渡れるとのがが溜く。大便はやや硬いのでつとめて野菜や果実を食べているという。しかし便所に行くたび毎に、とぶように出血するので、便所に行くのがおそろしくてたまらないという。腹診してみると、臍上で動悸が亢進し、下腹部が少し膨満している。患者も下腹がはるような感じがするという。そこで芍薬膠艾湯を与えたとところ、大便が気持よく出るようになり、2週間目から少しずつ出血が減じ、1ヵ月後には、まったく止血し、血色もよくなり、動悸、息切れも次第によくつた。(漢方婦科の実際)

高麗の子宮出血に対する治験例(漢方婦科上巻)

高麗膠艾湯の処方内容について、西岡一夫氏は、日東洋医学誌一四巻二号にその独自の見解を發表された。西岡氏は芍薬膠艾湯という方名を分析考証し、その原方は方名の如く四味であつたはずで、他の薬味は後人の添加したものであらうという。そしてそのことについては和田東郭がすでに言及して、臨床的効果も四味による芍薬膠艾湯の方が優つてゐるといつて、私はこの説に興味を覚え、最近これに四味膠艾湯と名づけて数例の治療を得た。

高麗の子宮出血に対する治験例(漢方婦科上巻)

高麗膠艾湯の処方内容について、西岡一夫氏は、日東洋医学誌一四巻二号にその独自の見解を發表された。西岡氏は芍薬膠艾湯という方名を分析考証し、その原方は方名の如く四味であつたはずで、他の薬味は後人の添加したものであらうという。そしてそのことについては和田東郭がすでに言及して、臨床的効果も四味による芍薬膠艾湯の方が優つてゐるといつて、私はこの説に興味を覚え、最近これに四味膠艾湯と名づけて数例の治療を得た。